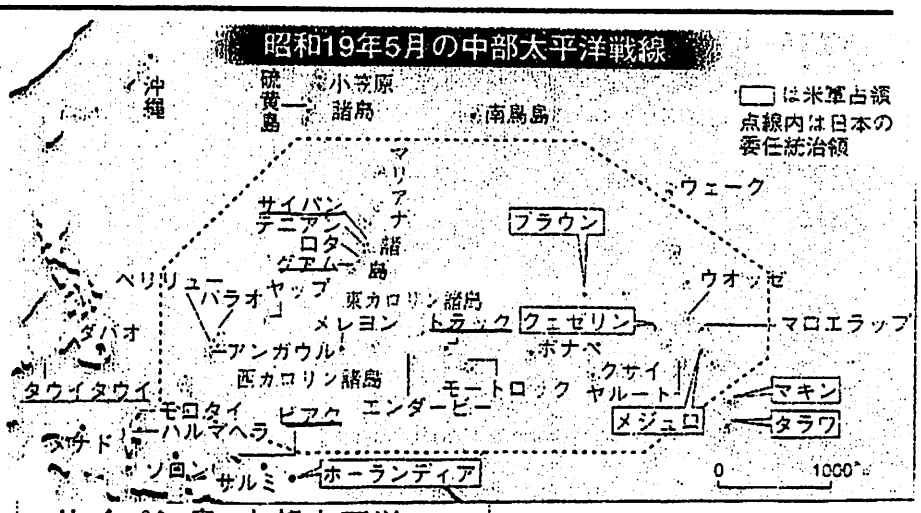
「サイパン陥落と東条英機内閣総辞職」メモ

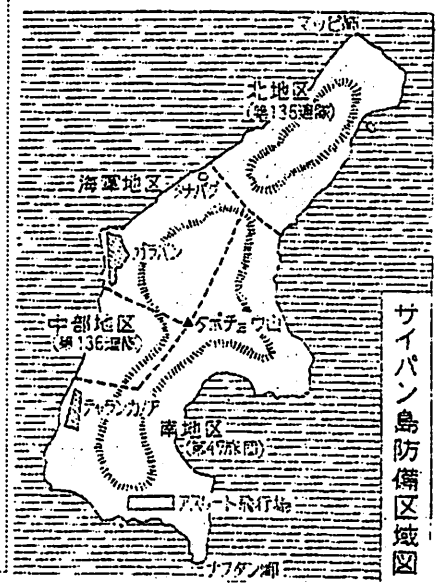
●サイパンは太平洋戦争で初めて住民を巻き添えにした「玉砕の島」
▽戦後 公開された米記録映画
▽高さ150㍍のマッピ岬断崖から宙に身を躍らせ 子供を抱え投身自殺する 日本人女性
▽米兵は「バンザイ・クリフ」「シューサイト・クリフ」

●「絶対国防圏」の重要拠点
▽米軍の進攻は 早かった
▽マーシャル諸島玉砕(19年2月5日)トラック島が空襲され連合艦隊根拠地が壊滅(17日)
▽決戦態勢を整える余裕もなく アメリカ機動部隊の猛威に

●１９年６月１５日、米軍上陸
▽海兵隊２個師団 ６万７千人
▽日本軍守備隊 ３万１，６００人
▽大本営が「難攻不落」と豪語していたサイパンは７月７日 戦闘２２日で玉砕



サイパン島 中部太平洋のマリアナ諸島に属し東京から南へ約2千キロ。南北19.2キロ東西2.4～9.6キロの火山島。第1次世界大戦までドイツ領だったが、大正8年6月ベルサイユ講和条約でカロリン、パラオ、マーシャル諸島と共に日本の委任統治領となった。砂糖黍栽培、製糖業を中心に、3万人近い日本人が定住し、8割は気候風土の似た沖縄からの入植者。



悲惨だった民間人

米軍上陸と共に町を捨て、昼は山中や洞窟に身を潜め、夜は日本兵共々島内を逃げ回った。7月9日には、北端マッピ岬に4千市民が追い詰められていた。海上は駆逐艦、上陸用舟艇が群がり、残る三方は米軍の銃口に囲まれていた。

マイクで投降を呼びかけても、長い逃避行に疲れ「鬼畜米英」と教え込まれてきた市民の耳には入らない。家族で手を取り合い、母親は子供を高く掲げて海に身を投げた。車座に座り、その真ん中に手榴弾を叩きつけて集団自決する者もいた。非戦闘員1万5千人が米軍に収容されたが、市民1万人が犠牲になったと云う。

絶対国防圏

ガダルカナル撤退(18年2月)以来の戦局悪化で、日本の防衛線は破綻の危機に直面していた。大本営は9月25日戦線を縮小し、マリアナ、カロリン諸島、西部ニューギニアの線を第一線とする「絶対国防圏」を定め、その確保に全力を挙げる方針を決定した。

現在戦っている前線は、出来る限り持久戦態勢をとり、その間に絶対国防圏の防備態勢を固める。反撃戦力、特に航空兵力を整備して、来攻する米軍に打撃を与え、進攻企図を粉砕しようとするものだった。

●サイパンのあっけない陥落が、2年9か月にわたって君臨してきた東条英機内閣を崩壊させることに

▽陸相のまま参謀総長兼任 異常な権力集中が
「反東条」の動きに 火を点ける形に

東条の「権力欲」

16年10月に組閣の大命を受けると、中将の任期はまだ終わっていなかったが、海相の嶋田繁太郎が大将では具合が悪いと特例で大将に昇進、陸相兼務のため現役のまま首相に就任した。現役大将で首相になった例は山県有朋、桂太郎、寺内正毅と3人いるが、陸相兼任は東条が初めて。組閣の際、治安重視のため内相を兼任し、一時的には外相、文相、拓務相、商工相、軍需相まで兼任した。

▽権限を強化し 憲兵政治で睨みをきかせたが
東条でも どうにもならないものが…

▽「統帥権」－軍隊の最高指揮命令権
陸海軍の作戦は 統帥部(参謀本部、軍令部)で決定
明治憲法では 天皇の大権 内閣から独立

▽陸相を兼務し 陸軍の人事権を握っていても
作戦に介入することは おろか
正確な戦況さえ 知らされないことが

▽国家予算の統制権は 内閣にあっても
8割以上が軍事費では 統帥部の意向に

●東条は戦争の総合指導権(統帥権)を掌握しようと…

陸海軍史上初の大臣・総長兼任

東条内閣は2月19日「人心一新のため」と称して内閣改造を行い、3人の閣僚を交代させた。そこへ統帥部から船舶徴用の要求、それも「ない袖を振れ」と云う要求が出てきて、呑めば民需に回す船はなくなり、生産面、食糧面に大きな影響が出る。拒否すれば、統帥部との深刻な対立になる。東条は陸軍次官富永恭次(とみなが・きょうじ)、嶋田海相を呼んで深夜まで協議した。

21日、陸軍三長官会議を開いて参謀総長杉山元に「マーシャル、トラック方面は一刻も猶予出来ない。自分が出るのが一番良いと思う」と総長交代を迫った。杉山が「統帥と政務を分け

東条 英機(とうじょう・ひでき)
明治17(1884)～昭和23(1948)東京生まれ。陸軍大将。関東軍参謀長、陸軍次官を経て昭和15年陸相。16年10月陸相兼任のまま首相。19年2月参謀総長を兼任したが、サイパン陥落で7月総辞職に追い込まれる。戦後ピストル自殺を図ったが未遂。A級戦犯として刑死

嶋田 繁太郎(しまだ・しげたろう)
明治16(1883)～昭和51(1976)東京生まれ。海軍大将。昭和16年東条内閣海相となり19年2月軍令部総長兼任。戦後A級戦犯として終身禁固刑。30年に釈放

山県 有朋(やまがた・ありとも)
天保9(1838)～大正11(1922)長州出身。元老。元帥、陸軍大将。2度首相となり長州閥総帥、陸軍の大御所として君臨

桂 太郎(かつら・たろう)
弘化4(1847)～大正2(1913) 長州出身。陸軍大将。明治34年首相、日露戦争を遂行。大正元年第3次内閣を組織したが、大正政変の憲政擁護運動で総辞職

寺内 正毅(てらうち・まさたけ)
嘉永5(1852)～大正8(1919)山口県生まれ。元帥、陸軍大将。初代朝鮮総督を経て大正5年首相。シベリア出兵を強行し米騒動、言論弾圧で非難を浴び辞職

東条批判も高まっていた

戦局の悪化と共に、「愛国行進曲」の冒頭「見よ東海の空明けて」をもじって「見よ東条の禿げ頭」の替え歌が流行った。この歌は「そびゆる富士も眩しがり あの禿げどけろと悔し泣き 雲に隠れて大むくれ」と続く。

るのは伝統の鉄則」と反対すると、東条は「それでは戦争完遂に自信が持てないから直ちに辞職する」。教育総監山田乙三（やまだ・おとぞう）には前夜のうちに富永を派遣して同意を取り付けていた。山田が杉山を説得、陸相の東条が参謀総長、海相の嶋田が軍令部総長を兼務、日本の陸海軍史上初めての異例な人事となった。

参謀次長を二人制にして、高級次長には陸士同期の後宮淳（うしろく・じゅん）大将を起用したが、軍令部も二人次長制になった。

批判は強かった

天皇は「憲法上、問題ないか」と賛成しかねる様子だったが、内大臣木戸幸一の日記よると、「今日の戦争の段階は、作戦に政治が追随する形だから、弊害はないと信じます。統帥と政務は厳に区別して扱います」とはねつけている。

秩父宮は3回も質問状を出している。「総理が総長を同一人で兼ねる形式は、戦争指導上、理想的なものか。統帥幕僚、政府幕僚の意見が一致しない場合、どうするか」。東条はその都度、戦争完遂上の特別措置と答えており、3回目は「異例の処置だから異論のあるのは当然だが、是非の論議は後生史家にお委せ下さい。現実におきましては統帥と国務とは十分うまくいって支障はありません。不十分の点があれば、御前において割腹してお詫び申し上げます」と開き直っている。

●東条は自信満々「これで政戦両略が一本になり、うまく行くぞ」その自信も、所詮は形式的なもの

清沢洌は日記に（19. 3. 14）

東条首相は参謀総長就任につき、その言動を極度に警戒しているそうだ。例の肩章（参謀肩章）をかけているときには参謀総長東条大将であり、断じて総理大臣ではない。さきごろ伊勢神宮に行ったときは参謀総長の資格であったそうで、その点厳格である。なんでも右翼方面から突込まれて以来のこととか。

杉山　元（すぎやま・はじめ）

明治13（1880）～昭和20（1945）福岡県生まれ。元帥、陸軍大将。昭和12年陸相、15年参謀総長となり、19年教育総監、小磯内閣で陸相再任。20年第1総軍司令官となったが、敗戦翌月ピストル自決

木戸　幸一（きど・こういち）

明治22（1889）～昭和52（1977）東京生まれ。維新の三傑・木戸孝允の孫。文相、内相を経て昭和15年内大臣となり天皇側近として力を揮った。開戦前、東条を首相に奏請したが、戦争末期には倒閣、和平工作に尽力。A級戦犯で終身禁固刑となったが病気で仮釈放。「木戸幸一日記」は東京裁判資料になる

清沢　洌（きよさわ・きよし）

明治23（1890）～昭和20（1945）長野県生まれ。朝日新聞記者を経て、自由主義者として外交・政治評論に活躍。戦中日記「暗黒日記」は貴重な現代史資料

四役の東条を探すのが大変

東条が首相官邸にいるのは、ほとんど30分くらい。陸軍省から参謀本部、軍需省と回り、街の視察にもよく出かけた。参謀総長として上奏する時、秘書官は参謀肩章を忘れてこっぴどく叱られたと云う。

参謀本部作戦課戦力班長・高山信武（たかやま・しのぶ＝戦後自衛隊陸将）は、「一刻を争う大本営命令あるいは参謀総長指示など決済を受けるため、幕僚がいかに苦労したか、想像を絶するものがあった」。深夜やっと首相官邸でもらう有様で、著「参謀本部作戦課の大東亜戦争」に「東条退陣で事務処理は速決化された」と書いている。

●マリアナ諸島の防波堤づくりは遅れに遅れた
▽インパール作戦が始まっていた(3月8日)
▽関東軍 朝鮮軍 支那派遣軍から
精鋭部隊を抽出 連隊規模の８派遣隊を編成
中部太平洋への派遣を発令(2月21日)
▽第３１軍を編成 サイパンに司令部(3月1日)
軍司令官には 小畑英良(おばた・ひでよし)中将
▽どの部隊を どこに配置するか 東条自ら采配
太平洋の島々に わずかな兵力の分散配置
▽「西部ニューギニアの戦況急迫」の理由で
サイパン グアムが 一番 後回しに
▽サイパンに 増強第一陣到着は３月１９日
▽第４３師団のサイパン派遣決定(4月7日)
斎藤義次(さいとう・よしじ)中将を師団長に
名古屋で編成 大半が応召者の 急造師団
▽訓練もそこそこ 師団主力到着は５月１９日
▽後続部隊は 潜水艦攻撃(6月4日～6日)で
輸送船６隻中 ５隻が撃沈され 壊滅的な打撃
▽資材輸送も遅れ セメント不足は深刻
水際陣地も 多くは 素掘りのタコ壺程度

●海軍の決戦態勢も机上の計算
▽中部太平洋の 航空決戦に備え
基地航空部隊として 第１航空艦隊編成(18年7月)
計画通り整備されれば １，６５０機の予定
▽海上決戦兵力として 第１機動艦隊編成(19年3月1日)
司令長官に 小沢治三郎中将
▽新鋭空母大鳳(29,300㌧)をはじめ
大型 中型 小型空母 ３隻ずつ 計９隻
艦爆「彗星」 艦攻「天山」など 艦載機４５０
▽中部太平洋方面艦隊を編成(3月4日)
サイパンに司令部 長官は南雲忠一中将
▽第１航空艦隊整備 機材補充が思うようにいかず
パイロットの訓練不足 相次ぐ空襲による消耗
６月初めの兵力は 約５３０機だった
▽第１機動艦隊も 優秀なパイロットを失っていて
パイロットの技量が 新鋭機についていけない

●サイパン攻略は「対日戦勝利の近道」として
▽「戦略爆撃」の 新戦略基地にするため

米軍素通りで「遊兵」に

中部太平洋への派遣兵力は、最終的には16万余りになった。制空権、制海権のない所に作戦は成り立たないのに、その戦訓は生かされなかった。

孤島の防衛がいかに難しいか、ガダルカナル敗戦でいやと云うほど味わったはずだった。マーシャル諸島の6つの島に分散配置された2千～6千の日本軍守備隊は、圧倒的な物量で攻めてくる米軍に、なすところもなく壊滅していた。

中部太平洋へは1万9千が「絶対国防圏」より先の島、これ以上兵力増強はしないと決めた島に送られ、連合艦隊のトラック撤退後、周辺の島に4万を張りつけている。

19年4月にカロリン諸島メレヨン島に派遣の部隊は、米軍の上陸はなく、飢餓にさらされた。空襲による戦死が175人だったのに対し、栄養失調、伝染病、脚気などの戦病死が4,800人に達し、無事復員出来たのは1,600人余りに過ぎなかった。

小沢　治三郎(おざわ・じさぶろう)
明治19(1886)～昭和41(1966)宮崎県生まれ。海軍中将。昭和16年南遣艦隊長官となり、19年第1機動艦隊長官。20年5月には最後の連合艦隊司令長官に就任

南雲　忠一(なぐも・ちゅういち)
明治20(1887)～昭和19(1944)山形県生まれ。開戦時、第1航空艦隊長官として真珠湾攻撃を指揮したが、昭和17年6月のミッドウェー海戦に敗れる。19年3月中部太平洋方面艦隊長官となりサイパンで玉砕。死後大将に昇進

▽米統合参謀本部は３月１１日
　マリアナ攻略を決定 ニミッツ(太平洋艦隊長官)に
　「６月１５日にサイパン上陸」を指示
▽米英連合幕僚会議(18年12月)では １０月の予定
▽繰り上がったのは 日本の基地航空兵力の弱体
　決定的要素が 長距離爆撃機Ｂ29の登場

●大本営の判断は極めて甘いものだった
▽米軍の進路 サイパンと思って当然だったのに…
▽５月２日 天皇も出席された
　「当面の作戦方針に関する陸海軍統帥部
　御前研究」で 嶋田総長が統帥部の見解
　空襲することはあっても 上陸作戦はまだ先
▽後宮参謀次長は「小笠原、マリアナ地区には相当の守備兵力を配置してある。特に中旬以降輸送予定の第43師団が上陸すれば、敵の攻略企図に対して自信がある」
▽東条も「サイパンは難攻不落です」と断言
▽兵力増強は あくまで 進行中の計画
▽防御陣地構築も その目で 確かめたものではない
▽高級幹部は 安全な 南方視察には出かけても
　戦闘苛烈な 第一線には 足を運んでいない
▽「これで大丈夫」は 指令さえ出しておけば
　その通りに行くはずだ 官僚的自信

●嶋田総長は５月３日、連合艦隊に「あ号作戦」指示
▽連合艦隊長官は 古賀峯一(こが・みねいち)の遭難殉職で
　豊田副武が 就任していた(5月3日)

「あ号作戦」

敵機動部隊をパラオ近海、西カロリンに誘い出し、予め展開した第1機動艦隊、第1航空艦隊の全力を投入して捕捉撃滅しようと云う作戦計画。この計画の背景には、敵の次の攻略目標はパラオを第一とし、マリアナの公算が少ないと見た誤判断、内地の油不足、艦隊に同行する油槽船不足が大きな要素になっていた。

第1機動艦隊の待機地点には燃料補給に便利なタウイタウイ(比島南西部)が選ばれ、艦隊行動半径は1,600キロ。決戦海面もその近くに求めた。

「超空の要塞」Ｂ29

最大速度577キロ。4トンの爆弾を積んで5,500キロ飛べサイパン－東京間2千キロを楽々往復出来た。1万メートル以上の高高度飛行で高射砲弾の心配はなく、戦闘機の迎撃も殆ど不可能。全長30メートルの機体は低空飛行の場合に施す迷彩の必要もなく、銀色のアルミの地肌を輝かせていた。17年9月21日試作1号機が完成、量産態勢に入っていた。

高松宮日記(18.5.31)

総長官邸ニテ中島知久平氏話アリ。必勝不敗ノ態勢ト云フモ、明年ハ米Ｂ-29ガ生産サレ、明後二十年ニハ日本攻撃用大攻ガ多量生産サレルデアラウ。斯クテ旧式ナ戦術思想ノ不敗ノ態勢ハ根底ヨリ覆サレテオルコトニ気ガツク。米大型攻撃機ニ対抗シテハ、其ノ飛行場ヲ使用不能ニスル事ガ考ヘラレル。之ガタメニハ日本モ長距離高速爆撃機ヲ以テセネバナラヌ。…要スルニ現状デハ日本ノ軍需工場ハ全滅シテ戦力ヲ失フノハ明カデアルカラ、大型機ヲ急速ニ設計、生産ニ着手セネバナラヌ。

中島　知久平(なかじま・ちくへい)
明治17(1884)～昭和24(1949)群馬県生まれ。海軍機関学校卒。大正6年退官、郷里に近い太田で日本初の民間飛行機製作所・中島飛行機研究所を設立。九一式陸軍戦闘機をはじめ多くの陸海軍機を製作し一大軍需会社となる。昭和5年衆議院議員。鉄道相、軍需相、商工相歴任

豊田　副武(とよだ・そえむ)
明治18(1885)～昭和32(1957)大分県生まれ。海軍大将。昭和19年連合艦隊司令長官となり20年5月軍令部総長

●第１機動艦隊は５月１９日、タウイタウイに集結
▽空母９隻 戦艦７隻 総勢７３隻
▽豊田は２０日「あ号作戦開始」を発令
第１航空艦隊も ３方面（パラオ マリアナ ヤップ）に展開
▽２７日 米軍のビアク島（ニューギニア西部）上陸から混乱
▽ビアクは「絶対国防圏」から 除かれていたのに
豊田は６月４日「渾作戦」を発令
▽ビアク反撃 西部ニューギニアにヤップの９０機
ハルマヘラへ マリアナの１００機を派遣

●米機動部隊がやって来たのはマリアナだった
▽１１日から連日空襲 １３日にサイパン艦砲射撃
豊田も「渾作戦」中止「あ号作戦決戦用意」
▽空襲で 基地航空兵力は １５０機を失い
ニューギニア派遣のパイロットは
マラリア デング熱にかかり 復帰が遅れた
▽１５日 米軍のサイパン上陸で
「あ号作戦決戦発動」をした時には
サイパン周辺に３、４０機 用をなさなかった

●連合軍の反攻はヨーロッパ戦線でも始まっていた
▽６月６日 仏ノルマンディ海岸に 大部隊上陸
▽作戦課は「我に有利」と見た
▽作戦会議では「いかに米軍といえども、太平洋方面で大規模な作戦を、同時に敢行することは無理だろう」 単なる機動作戦 上陸はあり得ない
▽米攻略部隊は この日 マーシャル諸島を出発
▽「あ号作戦」の決戦海面を パラオ近海としたため
索敵活動も マリアナから南は 全く お留守に
▽小畑軍司令官は 幕僚を連れ パラオ方面視察に

●東条総長は１４日、「マリアナ来攻の可能性」を上奏
▽「もしサイパンに来ましても十分確保出来ます」
▽服部は「敵がサイパンに来たら思う壺だ。そこで待望の殲滅戦を行い、敵の戦意を粉砕する」
▽真田穣一郎（さなだ・じょういちろう）作戦部長も
「サイパン攻略に来るとすれば、敵は中部太平洋方面で、一番堅固な正面にぶつかったことになる。これは敵の過失だ」
▽陸軍の自信は 晴気参謀の視察報告

東条はこんな冗談を云っていた

6月11日は日曜で、東条は用賀の私邸にお気にいりの作戦課長服部卓四郎大佐、参謀晴気誠（はるけ・まこと）少佐らを集めて歓談していた。「マリアナ空襲」の電話が入り、東条は参謀本部に戻る服部らを、「日曜日の空襲とは敵もやるじゃないか。日曜に働いてキリストさんに怒られんかな。敵、北より来れば北条時宗あり、東より来れば東条英機あり」と送り出した。

服部 卓四郎（はっとり・たくしろう）

明治34（1901）～昭和35（1960）東京生まれ。ノモンハン事件で関東軍参謀、昭和16年7月作戦課長となり、開戦からガダルカナル敗戦までの陸軍の主要作戦を指導。18年10月作戦課長に再任。戦後は第1復員局史実調査部長、厚生省資料整理部長として戦史資料の整理に当たる

「機密戦争日誌」（19. 6. 6）

当分の間、太平洋方面は積極的作戦停滞の公算あり。ただし、政治的に本土空襲することあるべし。

サイパン守備隊は打電（14日）

「今夜半モシクハ明朝、敵上陸ノ公算最モ大ナリト認ム」。陸軍守備隊は空と海を米軍に蹂躙され、「敵ノ振舞ハ傍若無人、帝国海軍イズレニアリヤ」と、その忿懣をぶつけている。

晴気は、こう報告していた

5月初めマリアナ地区を視察した晴気参謀は、「たとえ海軍航空隊がゼロになっても、第43師団が到着すれば、普通は正面1㌔あたり3. 3門の砲があればいいところを、今度は5門配置するから、これだけあれば、絶対敵を叩き出して見せる」。

●米軍上陸作戦は１５日朝、水陸両用車７００台で
▽３１軍参謀長・井桁敬司（いげた・けいじ）少将が指揮
榴弾砲１２門による 水際撃滅作戦で
死傷者１，５００人の損害を 与えたものの
夕方には 橋頭堡（長さ6.4キロ）を 構築される
▽参謀本部の電報綴じ込みには
赤鉛筆で「井桁のバカ」「弱虫」の 殴り書き
▽戦車４４台の夜襲も失敗
１８日 アスリート飛行場を占領される
組織的な戦闘力を失い 中央山地に後退
▽井桁から電報「ワガ掌握中ノ部隊ハ三個中隊ノミ
他ノ諸部隊ノ状況ハ全ク不明ナリ」
参謀本部の電報は「天皇ヨリ井桁ニ命令ス
アスリート飛行場ヲ死守スベシ」
井桁も返電「デキナイコトハ デキナイノダ」
▽２１日には 米軍機が発着 制空権は奪われた

●大本営が大きな期待をかけた「あ号作戦」
▽１９日午前６時半「敵発見」の第一報
ミッチャー率いる 大機動部隊
正規空母７隻 軽空母８隻 搭載機９００機

小沢がとった「アウトレンジ戦法」

米機は装甲、燃料タンクの防弾装置が厚いため重量がかさみ、攻撃距離は460キロ前後。日本機は攻撃一点張りの軽量、740キロの攻撃が出来た。この利点を生かし、味方空母を敵の攻撃圏外に置いて遠距離から攻撃隊を発進させ、先制攻撃で勝敗を決しようとした。

▽７時２５分 敵との距離５００キロで
第一次攻撃隊 ２４７機が発進
▽問題は この少々 荷の重い攻撃を
パイロットが どう こなすかだった
▽攻撃隊の中心は 第９期甲種飛行予科練習生
鹿屋に配属（前年12月） 飛行１００～１５０時間
「彗星」で 離着陸出来ても 着艦経験殆どなし
▽攻撃が終わった後は グアム島に 一旦 着陸
燃料補給を受け 再度攻撃の 往復攻撃を予定
▽米軍は 訓練２年 実戦で鍛えながら
平均飛行時間は ６００時間

1キロあたり何門といった戦術上の法則などはない。服部も真田も、米軍の猛烈な砲爆撃、圧倒的な物量作戦をどう考えていたのだろうか。

責任を感じ続けた晴気は終戦翌日、家族に「サイパンにて散るべかりし命を今日まで永らえてきた予の心中を察せられよ」の遺書を残し、陸軍省で自決した。

B29が北九州初爆撃

16日未明、中国の四川省成都を飛び立った47機のB29が、北九州・八幡製鉄所などを爆撃した。大本営は「損害軽微なり」と発表したが、死者312、負傷者323、家屋全壊308戸を数えた。

大本営は16日「米軍上陸」を発表

「マリアナ諸島に来襲せる敵は十五日朝に至りサイパンに上陸を企図せしも、前後二回之を水際に撃退せり。敵は同日正午頃三度来襲し今尚激戦中なり」

陸軍原案では「わが陸軍守備隊はこの敵を二回まで撃退せるも第三回目は上陸を許すの止むなきに至れり。敵艦隊の砲撃は言語に絶するものあり」だったが、伊藤整一軍令部次長が「子供騙しのような文句は必要ない」と二回撃退を削った。陸軍は納まらず、結局お互いの面子に関わる「陸軍守備隊」、「敵艦隊の苛烈な砲撃」の字句を抜いて妥協が成立した。

伊藤　整一（いとう・せいいち）
明治23（1890）～昭和20（1945）福岡県生まれ。開戦時に軍令部次長。昭和19年に第2艦隊長官となり、戦艦大和の沖縄特攻作戦で戦死。死後大将に進級

▽１０時半 第二次攻撃隊８２機が 発進したが
「ト連送」(全軍突撃せよ)は いくら待っても なかった

●米レーダーは１０時、日本攻撃隊を捉えた
▽全戦闘機４５０機が待ち伏せ 高々度攻撃
▽重い爆弾を抱え ２時間半も飛行
「マリアナの七面鳥撃ち」一方的な空中戦に
▽機動部隊上空に達しても
ＶＴ信管を備えた 対空砲火に 次々撃墜された

●小沢艦隊は潜水艦攻撃で主力空母２隻を失う
▽旗艦大鳳は 第一次攻撃隊 発進直後に雷撃される
５００㌔爆弾の直撃にも 耐えられるよう
飛行甲板を強化 最強空母のはずだったが…
▽たった１本の 魚雷の衝撃で
ガソリンタンクから洩れた 気化ガスが充満
午後２時半 突如 大爆発を起こし 横転
▽歴戦の翔鶴も 午前１１時半 魚雷３本で沈没
▽２２日 中城湾に帰投 空母飛鷹も撃沈され
艦載機３９５機を失い 機動部隊は再起不能に

マリアナ沖海戦の結果

日本側＝沈没	空母３隻	
中小破	空母４隻	戦艦１隻
米国側＝小破	空母２隻	戦艦２隻
航空機	撃墜３７機	不時着８０機

●東条は２４日「サイパン奪回の企図放棄」を上奏

機密戦争日誌(19.6.24)

海軍は「あ」号作戦に関し陸軍と協議の上、中止するに決す。即ち、帝国はサイパン島を放棄することとなれり。来月上旬中にはサイパン守備隊は玉砕すべし。最早、希望ある戦争指導は遂行し得ず。残るは一億玉砕に依る敵の戦意放棄に俟つあるのみ。

●東条内閣倒閣に動き出した岡田啓介元首相
▽天皇の側近中の側近 木戸内大臣を動かすのが
先決と 娘婿の迫水久常に 打診させる

ＶＴ信管

電波を発射し、目標に接近するとその反射を感知して弾薬を爆発させる信管。対空高射砲の撃墜率を向上させるため、アメリカはこの開発を原爆開発に匹敵する巨大プロジェクトとして推進、昭和19年から量産態勢に入っていた。

大本営発表(23日午後3時半)

「敵空母五隻、戦艦一隻以上ヲ撃沈破、敵機百以上ヲ撃墜。我方ハ空母一隻、付属油槽船二隻及ビ飛行機五十ヲ失エリ」

実際とは全くかけ離れたものだったが、陸軍に回された文案には「国民戦意と前線士気に及ぼす影響を考慮したい」との理由がつけられていた。

サイパン上陸発表の際、文案を修正された陸軍部内には反対論もあったが、結局当て付けのような「真相の発表を切望する」との付箋をつけて、海軍側に返した。

岡田　啓介(おかだ・けいすけ)

慶応4(1868)～昭和27(1952) 福井県生まれ。海軍大将。連合艦隊司令長官、海相を経て昭和9年7月首相。二・二六事件で襲撃されたが、義弟の秘書官松尾伝蔵が岡田と誤認されて射殺されたため難を免れた。戦争中は東条内閣倒閣、和平推進に重臣の中心となって動く

岡田の考え

このまま戦争を続けていけば、日本は国力の最後まで使い果たし徹底的に破壊されて無残な滅び方をする。一刻も早く戦争終結の道を考えた方が良いが、東条は戦争一本槍で突っ走っているだけだ。

▽木戸から 含みのある答え「重臣の考えが
一つの点で纏れば、上奏してもよい」
▽岡田は 重臣を倒閣に 結束させようと
重臣会合(18年8月) 毎月一回 開くことに

重臣とは

首相と枢密院議長の経験者を云う。近衛文麿、若槻礼次郎、広田弘毅、平沼騏一郎、陸軍の阿部信行、海軍からは岡田と米内光政の7人の重臣がいた。後継首相の選考は、昭和15年に最後の元老西園寺公望が亡くなってからは、重臣の意見を聞いて内大臣が推薦するのが慣例になっていた。

▽戦局悪化に対する 東条の責任を追及して
東条を引き下ろし 終戦への道を模索しようと

●東条に辞職を強いる方法がないまま、手詰まり感
▽東条は まだまだ強気
「聖戦」が建前の当時では 戦争収拾を
正面から論じることは 不可能

東条には天皇の強い信頼

「東条の内奏癖」と陰口されるくらい、東条は頻繁に天皇に会って、前後の事情、将来の見通しを詳細に報告した。それが、陸軍の独断専行、いい加減な言い訳に不満を感じていた天皇の信頼となった。その上天皇は、憲法を遵守し立憲的に行動しようと自制されたから、必然的に強い権限を持つ東条が「最高の独裁者と」なっていった。

●嶋田海相の軍令部総長兼任が倒閣への突破口
▽何でも 東条の言いなり「嶋田副官」のあだ名

高松宮日記(19. 2. 21)

軍令部、海軍省トモアキレカヘッテ、ヨロコブモノ一人モナシ。

▽海軍の長老 岡田は 矛先を嶋田に向け
嶋田を 海相から退かせることで
東条内閣に クサビを打ち込もうと考えた

迫水 久常(さこみず・ひさつね)
明治35(1902)～昭和52(1977)鹿児島県生まれ。大蔵省に入省し二・二六事件の時には岳父岡田首相の秘書官。終戦時、鈴木内閣書記官長。昭和27年に衆議院議員となり、31年参議院議員。池田内閣の経企庁長官、郵政相などを歴任

近衛 文麿(このえ・ふみまろ)
明治24(1891)～昭和20(1945)東京生まれ。昭和12年6月首相となり直後の支那事変で早期和平に失敗。14年1月辞職し枢密院議長。15年再び首相。大政翼賛会を設立、日独伊三国同盟を締結。南部仏印進駐で対米関係を悪化させ、16年7月松岡洋右外相を更迭し第3次内閣組閣。しかし日米交渉妥結の展望を失い10月総辞職。戦後、戦犯容疑で指名され自殺

若槻 礼次郎(わかつき・れいじろう)
慶応2(1866)～昭和24(1949) 島根県生まれ。大正15年首相。金融恐慌で総辞職し、6年再度首相となるが満州事変が勃発し8か月で辞職。著に「古風庵回顧録」

広田 弘毅(ひろた・こうき)
明治11(1878)～昭和23(1948)福岡県生まれ。駐ソ大使、外相を経て昭和11年二・二六事件直後に首相。戦争末期にソ連仲介の和平工作を試み失敗。戦後、A級戦犯に指名され文官でただ一人絞首刑

平沼 騏一郎(ひらぬま・きいちろう)
慶応3(1867)～昭和27(1952) 岡山県生まれ。検事総長、大審院長を経て昭和11年枢密院議長。14年首相となるが、独ソ不可侵条約締結に、「欧州情勢は複雑怪奇」の声明を出し総辞職。A級戦犯容疑で終身禁固刑を受け、仮出所中に病没

岡田の海軍部内工作

嶋田は、海軍の大御所伏見宮元帥の「寵児」と云われるくらい可愛がられていたから、岡田は6月4日、まず伏見宮に会って、嶋田への辞職勧告に同意を取り付けた。「次の海軍トップ」の用意として米内、末次信正大将の現役復帰を考えていたが、末次は「艦隊派」の強硬論者。米内とは仲が悪く、岡田に云わせると「末次はどうでもよかったが、米内を円満に現役に戻すには海軍部内を纏めることが必要だ」と、翌5日、藤山愛一郎邸で秘かに二人を会わせ、協力を約束させた。

岡田は、木戸内大臣や高松宮にも嶋田への辞職勧告を知らせ、外堀を埋めていった。

●木戸は、まだ慎重だった

▽「内大臣が上奏して政局転換を図ることは、宮中クーデターになるので出来ない」

▽東条本人が 手を挙げるのを 待ち続ける態度

木戸の心も、東条から離れる

嶋田問題も、とりあえずは調停役になって丸く収めようと、東条が参内した6月8日、話題が深刻なだけにインパール作戦を糸口にして切り出そうとした。

「大変なようですね。師団長が更迭されたとか」。東条には笑い飛ばすような度量がない。見る見る顔を紅潮させ「そんなことをどこから聞かれたか？国防保安法にも抵触する容易ならんことだ。軍に関する悪質な造言は、たとえあなたでも許せませんぞ」と怒鳴った。木戸の顔色も変わり、「何を云うか。内大臣として国の大事を聞いて何が悪い」。

睨み合いとなり、東条が「言葉が過ぎた」と折れたので、その場は収まったが…。

●岡田は６月１６日、嶋田に海相辞職を迫る

▽嶋田は「今辞めるのは内閣を潰す結果に」と拒否

報告を受けた東条も まだ 楽観していた

阿部　信行（あべ・のぶゆき）

明治8(1875)～昭和28(1953) 石川県生まれ。陸軍大将。昭和14年8月首相。直後に第2次大戦が勃発し「欧州大戦に介入せず」と声明。中国大使、朝鮮総督歴任

米内　光政（よない・みつまさ）

明治13(1880)～昭和23(1948)岩手県生まれ。海軍大将。 連合艦隊長官、海相を経て昭和15年1月首相。日独伊三国同盟締結に反対したため陸軍の協力が得られず7月総辞職。19年7月から小磯、鈴木内閣海相となり戦争終結に尽力

西園寺　公望（さいおんじ・きんもち）

嘉永2(1849)～昭和15(1940) 京都生まれ。文相、枢密院議長を歴任し明治36年政友会総裁。39、44年首相。 大正11年からは最後の元老として後継首相奏請

末次　信正（すえつぐ・のぶまさ）

明治13(1880)～昭和19(1944)山口県生まれ。海軍大将。海軍有数の戦術理論家と云われ、昭和5年のロンドン軍縮条約締結に反対し、 統帥権干犯問題の中心となった艦隊派。8年連合艦隊長官となり、12年近衛内閣内相などを歴任した

藤山　愛一郎（ふじやま・あいいちろう）

明治30(1897)～昭和60(1985)東京生まれ。藤山コンツェルン藤山雷太の長男。昭和16年日商会頭。戦後は32年、岸内閣外相となり日中国交回復に尽力した

佐藤　賢了（さとう・けんりょう）

明治28(1895)～昭和50(1975)石川県生まれ。陸軍中将。昭和13年軍務局員の時質問する政友会議員を大喝し、「黙れ事件」を起こす。軍務課長を経て17年軍務局長。A級戦犯で終身禁固、31年出所

▽陸軍幹部を集めて 対策協議
「策動している連中を一時抑留して
裏面工作を阻止すべききだ」の 強硬論も
▽佐藤賢了軍務局長の「事を大きくするより、元凶は岡田らしいから、あの爺さんを呼び出して詰問し、謝罪させたらいいでしょう」
「岡田謝罪会見」の機会を 作ることに

●東条も、天皇に「確保」を約束したサイパンの戦況悪化、ことにマリアナ沖海戦の大敗には動揺した
▽２３日 東久邇宮を訪ね
「戦争の前途も不利となり、内閣も行き詰まってきたから、自分は辞めようと思う」と 弱音

近衛と東久邇宮は「東条に全責任」

東久邇宮は、4月に近衛から「このまま東条にやらせる方がよいと思う。折角、東条がヒットラーと共に世界の憎まれ者になっているのだから、それが途中で二、三人交替すれば、誰が責任者かはっきりしなくなる」。
この意見に東久邇宮も賛成し、戦争責任が天皇に及ばないよう、「東条に全責任を負わせる」ことで一致していた。

▽東条は 気を取り直し 倒閣に動いている重臣を内閣に取り込むことで 政局を乗り切ろうと

●高松宮はサイパン奪回放棄に、日記に「戦況記録ヲ止メル」と、２倍くらいの大きな字で殴り書き
▽「高松宮日記」(全8巻)の特徴は
作戦電報を 詳細に 書き写していることだが
もはや 敗戦は避けられない
皇族としてやるべきことは 別にあると決心
▽この後 弟宮としての直言が 随所に
▽秩父宮にも会って「陛下が依然形式的なること。(秩父宮の健康が)よさそうなら、兄上様に申し上げてほしい」と 頼んでいる(7月5日)
▽７月８日には
木戸内大臣 宮内大臣(松平恒雄=まつだいら・つねお)
侍従長(百武三郎海軍大将=ひゃくたけ・さぶろう)と
天皇について かなり 突っ込んだ話し合い

東久邇 稔彦(ひがしくに・なるひこ)
明治20(1887)～平成2(1990) 京都生まれ。陸軍大将。フランスに留学し昭和16年防衛総司令官。20年8月初の皇族内閣を組織し、戦後処理に当たる

東久邇宮日記(19.6.23)
午後三時、東条首相、防衛総司令部に来る。…私は次のように言った。
「だから私は、はじめから戦争をやってはだめだ、といったではないか。しかし今となってやめるというのは無責任きわまる。やめてもいいが、戦争の後始末をどう考えるのか、講和するのか、いちおう善後策を立ててからおやめなさい」。東条は、「まだ考えていない」といったが、東条は毎日の激務に追われて、ものを考える余裕もないらしかった。

サイパン奪回放棄決定まで
陸海軍の協議で、海軍側は陸軍機を100機から150機借りて空母から発進させるプランを出していた。しかし、陸軍側は「制空権、制海権もない現在とても無理だ」と反対、東条も参謀総長としてサイパン放棄の方針を打ち出した。海軍も陸軍機が借りられず、陸軍部隊の増援もしないのでは意味がないとなり、24日の上奏となった。
天皇は終始無言だった。天皇の沈黙は不同意を意味する。天皇は元帥会議に諮問されたが、結論は統帥部決定通りだった。
サイパンから「歩兵一連隊ニ加ウルニ六大隊程度ヲ要望ス。尚、陸軍航空ノ進出モ希望ス」と打電してきたが、大本営の回答は嘘もつけず、「増援ハ之ヲ行ナワザルコトトセラレタリ」と冷たいものだった。

▽「何シロ今日ノ如キ、憲法々々ト仰ッテモ、ソノ運用ガ大切ナル時ニ、今ノ様ナ有様デハ、例ヘ天皇トシテ上御一人デモ万世一系ノ一ツノツナガリトシテ、ソレデハ余リニモ個人的スギルト思フ」

●東条から岡田に呼び出しがかったのは６月２７日
▽岡田邸門前には「身辺警護」の名目で
立哨用ボックス 軍服の憲兵が立つように

岡田・東条30分の対決

岡田は心配する家族に、「まあ、東条の果たし状だなぁ」、「この対決に負けたらいかんぞ、侍の子、岡田啓介！」と気を奮い立たせて出かけたと云う。東条は言葉こそ丁寧に「閣下が海軍大臣更迭に若い将校に動かされ、殿下までわずらわしたりするのは、内閣に動揺を来すことになるので甚だ困ります」と切り出した。

岡田が「殿下のことは関知しない。若い者に動かされたのではなく、嶋田ではもう海軍は収まらぬ。私は政府のためと思ってやっているのだ」と切り返すと、「お慎みにならないと、お困りになるような結果を見ます」と、暗に脅しをかけてくる。岡田は「見解の相違だ。私は私の考えを捨てない」と言い切り、正面衝突のまま物別れに終わった。

▽嶋田も 早朝 伏見宮を訪ね「東京におられると、倒閣の陰謀に巻き込まれる」と 熱海の別邸に

●「東条暗殺計画」が陸海軍別々に進められていた
▽海軍省の廊下には ビラが貼られた
「東条、嶋田を殺せ。ＧＦ（連合艦隊）は無力化した。速やかに和平内閣をつくるべし」
▽教育局長 高木惣吉少将の部屋には 連日
課長の神重徳（かみ・しげのり）大佐が入り 密談

海軍の暗殺計画

神は、ソロモン海戦で艦隊参謀として果敢な作戦をやり、「神さん、神懸かり」と云われた闘魂の持ち主。東条内閣ではダメだと、三上卓を呼び出し暗殺に協力を求めていた。高木もサイパン放棄を聞いて決意する。

高松宮日記（19.7.8）

陛下ノ御性質上、組織ガ動イテヰルトキハ邪ナコトガオ嫌ヒナレバ筋ヲ通スト云フ潔癖ハ長所デイラッシャルガ、組織ガソノ本当ノ作用ヲシナクナッタトキハ、ドウニモナラヌ短所トナッテシマフ。今後ノ難局ニハ最モソノ短所ガ大キク害ヲナスト心配サレルノデ、サウシタトキノ御心構ヘナリ御処置ニツキ今カラオ考ヘヲ正シ準備ヲスル要アリ。即チ精神上ノ師トナル人ヲオツケスルコトガ必要デアルトノ話ヲシタ。

オ上ハ筋ヲ踏ミ外スコトガ全クオキラヒナタメ、内大臣ハ政治向キ、武官長ハ軍事、宮内大臣ハ宮中関係、侍従長ニハ側近ノコト（と）云フ風ニ全クソレカラ少シデモ出タコトヲ申シ上ゲレバ御気色悪ク、自ラモ決シテ仰セニナラヌ。…内大臣ハ全ク有難イ御気持トハ思フガ余リニ極端デハアルトハ感ジアリ。

高松宮日記（19.6.27）

総長室ノ前ノ番兵一人ダッタノガ二人ニナッテ、三階番兵三人ニナル。「テロ」ノ恐怖始マル。

高木　惣吉（たかぎ・そうきち）
明治26（1893）～昭和54（1979）熊本県生まれ。海軍中将。昭和19年3月教育局長。9月から「軍令部出仕兼海大研究部員」の肩書きで、終戦工作の研究に当たる

三上　卓（みかみ・たく）
明治38（1905）～昭和46（1971）佐賀県生まれ。海軍中尉。昭和7年の五・一五事件で犬養毅首相を射殺し禁固15年の判決を受けたが、13年仮釈放。皇道翼賛青年連盟委員長として右翼活動をしていた

高木は「読みが浅かった。決行していたら、陸海軍の対立で終戦がやりにくくなったろう」と反省しているが、24日夜岡田に計画を打ち明けた。岡田自身二・二六事件で襲われ九死に一生を得ている。「とんでもないことだ。多少事が思い通りに進まなくても、決して軽挙すべきでない」と叱ったが、そんなことになる前に総辞職に追い込もうと、東条との対決に悲壮な決意で臨んだと云う。

高木は高松宮を訪ね「戦局が思わしくないせいか、独り言を云う変な癖がつきました」と断った上で、「気にかかるのは東条を殺した後です。その時に力をお貸し頂ければ」。

高松宮は「あなたの独り言癖が私にも移ったようだ」と前置きして、「私が支持し、期待してると考えてもらって結構だ」。

7月20日頃、3台の車を東条の車に体当たりさせる計画だったが、神が連合艦隊参謀に転出、東条内閣も総辞職し、計画だけに終わった。神は終戦1月後、北海道へ連絡のため練習機で飛ぶ途中、津軽海峡に不時着水。他の乗組員は米駆逐艦に救助されたのに、泳ぎの得意な神だけは見つからなかった。

陸軍の暗殺計画

参謀本部参謀、27歳の津野田知重（つのだ・ともしげ）少佐は、支那派遣軍参謀から戻ってきて、戦争が絶望的になっていることを知り、東条を除かなければ国は救えないと思い詰めていた。皇宮警察柔道師範牛島辰熊（うしじま・たつくま）と早期停戦の献策書を作り、6月30日に二人が師と仰ぐ石原莞爾中将の意見を聞こうと、鶴岡に訪ねた。

献策書の最後には欄外に1行、「万止むを得ざる時には、東条を斬る」の書き込みがあった。それを読んだ石原は赤鉛筆で「斬るに賛成」と書き加えたと云う。

計画は思わぬ所から洩れた。津野田は天皇に早期停戦の考えを伝えて貰おうと、陸士2期先輩の三笠宮少佐を訪ねた。三笠宮も「国

ヒットラー暗殺未遂事件

ドイツ国防軍参謀長シュタウヘンベルクは7月20日、ヒットラー総統の出席する作戦会議に爆弾を仕掛けたが、ヒットラーは軽傷を負っただけ。

暗殺は失敗し、関係者は即刻処刑された。その後、反ヒットラー派と目された5,000人が逮捕され、死に追いやられた。

貴族や国防軍上層部が、杜撰な計画で実行した暗殺未遂事件だった。

石原　莞爾（いしはら・かんじ）

明治22（1885）～昭和24（1949）山形県生まれ。陸軍中将。昭和3年関東軍参謀。満鉄爆破による満州占領を計画、6年満州事変を主導し、満州国建国。参謀本部作戦部長の時、12年7月の支那事変拡大に反対するが失敗。16年予備役編入、東亜連盟を指導した。著に「世界最終戦論」

東条に直言し「死の戦地」へ

陸軍省戦備課塚本清彦（つかもと・きよひこ）少佐は倒閣運動をしていた通信院工務局長・松前重義の同志。6月11日夜、東条を直接訪ね、「近衛公などの挙国一致内閣を作り、閣下は軍事に専念されるよう」進言した。

東条は翌朝、富永次官に「生死をかけて戦っている最前線の苦労も知らずに、口舌を玩ぶ若い者がいる。サイパンへ行かせたらどうだ」と、第31軍参謀への転出を指示した。

塚本は帰宅して奥さんに「自分は東条によって遠島流罪になった」。サイパンへ行けずにグアム島に留まっているところへ米軍上陸。パラオ出張中でサイパンへ戻れず、グアムで指揮をとっていた小畑第31軍司令官と共に8月11日玉砕した。34歳だった。

家滅亡の危機が迫りつつあるのを感じ苦悶している。私なりに努力してみよう」と同意したが、7月15日に大宮御所で皇太后と話しているうち、戦争の行く末を心配する母親を安心させようと、つい口を滑らせた。

驚いた皇太后から「重大なことになる前にその筋の者に知らせなさい」と叱られ、三笠宮は深夜、兵務局で治安問題担当・黒崎貞明（くろさき・さだあき）中佐を呼び出し相談した。作戦指導で中支出張中の津野田に召喚命令を出すには、上司への手続きが必要だった。報告を受けた那須義雄（なす・よしお）兵務局長は東条直系。「倒閣工作を潰すためには、見せしめのためにも断固たる処置が必要だ」と、東京憲兵隊長四方諒二（しかた・りょうじ）大佐に徹底捜査を命じた。帰京した津野田は19日（東条内閣総辞職の翌日）逮捕され、軍法会議で禁固2年、執行猶予の判決を受け、官位を剥脱された。

●サイパンは７月６日、最後の時を迎えていた
▽日本軍は じりじり 北へ追い詰められ
南雲 斎藤 井桁は 翌日未明の玉砕攻撃を決定
大本営に「イマ、太平洋ノ防波堤トシテ骨ヲ埋メントシ、聖寿ノ無窮、皇国ノ弥栄ヲ祈念ス」
訣別電報を打ち 洞穴内司令部で 自決した
▽最後の突撃は 小銃も１０人に１挺程度
後は手榴弾 棒に銃剣を縛り付け 竹槍の者も
▽撃たれても 撃たれても 絶対に引き返さず
喚声をあげながら 血塗れになって 進んだ
▽海岸 道路は 日本兵の死体で埋まり ４，３１１

●玉砕発表は１８日だったが、誰の目にも絶望的
▽大本営の戦況発表は「戦線は彼我錯綜し、
諸所に紛戦を惹起しつつあり」

徳川夢声「戦争日記」（19.7.9）

サイパンは玉砕ですってさ、と妻が報告する。何所から聴いてきた話か知らないが、私には確実と思える。

松前　重義（まつまえ・しげよし）

明治34（1901）～平成3（1991）熊本県生まれ。通信院工務局長の時、東条内閣倒閣運動をやって睨まれ、昭和19年7月二等兵で召集される。戦後、社会党衆議院議員。42年東海大学など東海学園総長

戦争終結を具申し追われた者も

参謀本部戦争指導班長・松谷誠（まつたに・せい）大佐。戦争指導班は戦争の目的を明確にし、勝つための戦略、戦争を終わらせるための方策を研究する部署。班内の検討で「日本の負けであり戦争を収拾する方向に向かえ」の結論を出し、サイパン放棄が決まった機会に参謀次長に提出した。

陸軍部内は勿論、政府機関で「勝利貫徹」以外の戦争終結が、公式に検討されたのは初めてのこと。戦争指導の大転換だったが、上司は「必勝の信念」一本槍の東条には、とても理解して貰えないと提出を止めさせた。

しかし松谷は、このままでは職責を全うすることにならないと、東条に直接ぶつかった。東条は無言で終始したが、すぐ「このような意見の持ち主を軍の中枢に置いておくわけにはいかない。国論の分裂を招く」と前線転出を命じた。後宮参謀次長が「戦争指導班長である以上、戦争終結のあらゆる可能性を研究するのは当然であって、懲罰的な前線追放はいかがなものか」と取り成し、松谷は7月3日付で支那派遣軍参謀転出ですんだ。

徳川　夢声（とくがわ・むせい）

明治27（1894）～昭和46（1971）島根県生まれ。本名福原駿雄。映画弁士、漫談家、俳優として活躍し、朗読、話術の第一人者。著に「夢声戦争日記」

●戦場に見捨てられた住民

▽夢声は 翌日の日記に 思いを寄せている

「軍人軍属はともかくとして、沢山の非戦闘員、老人、女、子供は何うケリがついたのであろうか。玉砕と言っても、女や子供たちまで殺され尽くし、自殺し尽くしたとは、一寸考えられない。生き残ったとするとどうなるか。敵兵どもは、これを捕まえて如何なる処置をとるか」

▽天皇も 心配されていた

東条が「インパール作戦中止」上奏の時(1日)

「もはや救出奪回の途なしとすれば、サイパン在留の多数同胞、一般民間人の運命はどのようになっておるか」

▽東条の答えは

「遺憾ながら大本営としては、これに対する処置はなく、現地司令官に一任と決定しております」

▽ところが 現地司令官は 民間人保護には

何の方針も 示さないまま 自決してしまった

▽戦争と云えば 常に 外地

住民を巻き込んで 戦ったことのない 日本軍

司令官の頭にあるのは 戦うことばかり

大本営も 占領地統治の方針は 決めても

日本人保護には 全く 手つかずだった

●反東条の動きは、重臣だけでなく翼賛政治会にも

▽7月6日午後の 代議士会は

さながら「東条内閣打倒決起大会」に

▽「人心を一新したいが、いかなる行動をとるか」

この発言をきっかけに 一人が

「東条首相だけ残して、後は全面改造」と叫ぶと

「バカ」「引っ込め」 ヤジが飛び交い 騒然

▽議会開会中は 議場に いつも

四方憲兵隊長が 軍服姿で現われ

発言に 威圧を加えていたから

くすぶっていた不満が 多数に力を得て 爆発

▽「挙国一致の体制を具現するよう、政府に善処すべしと要請する」を採択して 終わった

▽「倒閣大会」を演出した 若手代議士

椎名悦三郎 赤城宗徳 中谷武世

「不信任決議」まで用意して 臨んでいた

遅蒔きながら疎開実施へ

本土空襲必至と見た政府は6月30日「学童疎開促進要綱」を閣議決定し、国民学校初等科の児童を強制的に疎開させることにした。7月8日には「集団疎開実施要綱」を決定したが、対象児童は東京・横浜・川崎・横須賀・名古屋・大阪・神戸・尼崎・八幡・門司・小倉・若松・戸畑の13都市に住む3～6年生で、8月から急ピッチで進められた。

また7月7日の閣議は、沖縄県の老幼婦女子、学童8万人を本土へ、2万人をを台湾に疎開させることを決定。

11月にはB29が東京へ

マリアナ基地を発進した1機のB29が勝浦から東京へ侵入し、高度1万㍍からゆうゆう偵察していったのが11月1日。高空を飛べない日本の戦闘機はどうすることも出来なかった。

そして24日には、80機が三鷹の中島飛行機工場を爆撃、78人の死者を出したが、本格的空襲の前触れだった。

椎名　悦三郎(しいな・えつさぶろう)

明治31(1898)～昭和54(1979)岩手県生まれ。昭和16年商工次官。17年の翼賛選挙で当選。30年衆議院議員となり、官房長官、通産相、外相を歴任。自民党副総裁として49年、三木内閣を誕生させる

赤城　宗徳(あかぎ・むねのり)

明治20(1904)～平成5(1993) 茨城県生まれ。昭和12年衆議院議員。戦後岸内閣防衛庁長官、農相、官房長官

中谷　武世(なかたに・たけよ)

明治31(1898)～平成2(1990) 和歌山県生まれ。昭和17年衆議院議員。法政大教授。戦後は日本アラブ協会会長

●椎名らの「倒閣工作」の重点は岸信介

岸と東条の仲

岸が昭和11年、商工省から満州国実業部次長として出向した時、東条は関東軍参謀長。「盟友」と云われるくらい親しい仲になったが、当時、星野直樹、松岡洋右、鮎川義介を加えた五人は「二キ三スケ」、満州の軍・政財界を牛耳る切れ者だと云われた。

東条内閣発足と共に、岸は44歳で商工相に抜擢された。18年11月の軍需省発足で次官・国務相になっていたが、岸の下で商工次官を務めた椎名は岸への働きかけを強めた。

▽岸も 東条の独善的なやり方に 疑問
　同じ長州出身の 木戸内大臣に接触
▽岸は６日夜 高木少将に会って 東条批判から
　「そうかといって、東条に代わり得る者はいないし、海軍にはいろいろ不満があろうが、何とか内閣にご助力願えないか」 高木は拒否

●東条は、治安関係閣僚と側近幕僚を緊急招集
▽内相は 内閣に反対する議員の 徹底検挙
　富永は 戒厳令を主張　議員の数が多過ぎた
▽東条は「国内一致し微動だにしておらんことを、対外的にも見せなくてはならない時だ。強硬なやり方は避けた方がいい」個々の措置で
▽富永に 松前を召集 前線に出すことを命じた
▽高松宮も ８月の定期異動(21日付)を待って
　横須賀砲術学校教頭として 中央を追われる
▽四方は 東京憲兵隊全員を非常招集
　「重臣を含め反対勢力を徹底してマークしろ
　尾行や内偵も堂々とやって威圧しろ」と訓示

●岸も、東条との対決を決意
▽東条は１１日の閣議で「サイパン玉砕」を告げる
▽岸が「今が戦争の天王山ではないか。サイパンに総力を結集して決戦すべきではないか」と進言
▽東条から「戦争のやり方は大本営が考えることだ。何も知らない貴様みたいな文官に、何がわかるか」と 怒鳴られる

岸　信介(きし・のぶすけ)
明治29(1896)～昭和62(1987)山口県生まれ。佐藤栄作元首相の兄。昭和16年東条内閣商工相。軍需省発足で次官・国務相となるが、東条の辞職要求を拒否、総辞職に追い込む。戦後、A級戦犯として逮捕され23年釈放。31年、自民党総裁選で石橋湛山に敗れるが石橋の病気退陣で、翌年首相。35年の日米安保条約改定が戦後最大の反政府運動に発展し辞職

星野　直樹(ほしの・なおき)
明治25(1892)～昭和53(1978)横浜市生まれ。昭和7年大蔵省から満州国に出向し12年総務長官。企画院総裁を経て、16年東条内閣書記官長。戦後、A級戦犯として終身禁固刑になるが、33年釈放

松岡　洋右(まつおか・ようすけ)
明治13(1880)～昭和21(1946)山口県生まれ。昭和8年の国際連盟臨時総会首席全権、満州国否認に抗議し退場。10年満鉄総裁。15年近衛内閣外相となり、日独伊三国同盟を締結、日ソ中立条約調印。戦後、A級戦犯で起訴されたが病死

鮎川　義介(あゆかわ・よしすけ)
明治13(1880)～昭和42(1967)山口県生まれ。日産コンツェルンの総帥。昭和12年関東軍の要請を容れて日産本社を満州に移転、満州重工業開発と改称。戦後は28年に参議院議員

高松宮日記(19年7月補記欄)

松前ガ応召シタトノ話デ尋ネタラ、ヤハリ熊本ノ西部二十二部隊工兵二二等兵トシテ召集サレタ由。…政権擁護ヲメグル渦中(二)アッテ技術者ナルモ政治的ニモ一家言ヲモチ、近衛ニモ話ヲシタトカ。サウシタ事デ憲兵、星野書記官長カラ目ヲツケ、東条モソノツモリ

▽岸は 椎名ら３人を集めて「倒閣宣言」
「この数日が日本の興廃を占う。われわれの戦場になるはずだ」東条との抱き合い心中
▽改造となれば 自分に 辞任を求めてくるだろう
明治憲法では 首相に 閣僚罷免権はない
応じなければ「内閣不一致」で 総辞職になる

●陸軍最高幹部の鳩首協議では「重臣取り込み」方針
▽体制強化に 阿部 米内 広田を 入閣させる
難関の米内は 佐藤軍務局長が 海軍工作に
▽東条は１３日 電撃的改造で 乗り切ろうと
お墨付きを得るため 木戸内大臣を訪ねた
「この際、サイパン失陥の責任問題はしばらくご容赦願って、今はただ戦争完遂に邁進することを決心しました」 木戸は ３条件を出した

木戸の出した３条件

第一に、総長と大臣の兼任を分離して統帥権を確立すること 第二に、島田海相の更迭 第三に、挙国一致の政府体制を整えること

●東条、最後の足掻き
▽「これは私に詰め腹を切らそうとするものだ。ご信任は去った」と 辞意を洩らしたが…
▽富永 佐藤から「総長兼任を辞めて、三条件に沿って改造を断行すればよい」と 励まされ
総長辞任を決意 島田にも 海相辞任を求めた
▽人事をめぐる「ドタバタ劇」は あったものの
形だけは ２条件をクリアする 見通しがつき
残るは「挙国一致内閣」と 重臣取り込みに奔走
▽これこそ 岡田の 待ち望んでいたもの
▽閣僚ポストを空けるため 辞表を求めるのは
岸に違いないと 迫水を派遣 岸はすでに決意
▽１７日午前２時過ぎ 星野書記官長が深夜の使者
▽岸は拒否し 朝 東条を訪ね「総辞職」を進言
▽夕方には 四方憲兵隊長が
サイドカーで乗り付け「東条閣下が右向け右と云えば、閣僚はそれに従ったらどうなんだ」
▽岸は「日本で、その力を持っていられるのは、陛下だけだ」と 切り返した

デ召集ヲ命ジタモノデアル。カヽル種類ノ召集ガ此ノ度七十数人アッタト云ハレル。実ニ憤慨ニ堪ヘヌ。徴兵ハ陸軍トハ云ヘ天下ノ正シキ国務ノ義務デアリ、国務デアル。之ヲカヽル意味デ乱用スルノハ陸軍ノ不正デアルバカリデナク、陸海軍ノ責任デアリ、国権ノ紊乱デアル。

陸海軍人事のドタバタ

東条は13日夜、島田を呼んで海相辞任を求め、軍令部総長として留任し、海相には沢本頼雄（さわもと・よりお）次官になって貰う。自分は陸相に留任するが、参謀総長に後宮次長の昇格を予定している。つまり、形の上では総長分離・海相更迭の2条件を満たしつつ後任に今までのナンバーツーを昇格させて、実体は変えない狙いを伝え、同意を取り付けた。

14日に後宮総長を内奏したが、思いもかけない反発が陸軍部内から起こった。「東条人事、総長ロボット化だ」と、服部作戦課長が「後宮が総長ではとってもやっていけない」と反対、17日、関東軍司令官梅津美治郎を総長、山田をその後任、杉山を教育総監とする異例の内奏取り消しとなった。

海相人事は、陸軍と違って前任者が後任を推挙し伏見宮の同意を得ることが慣例だったが、伏見宮が「沢本では海軍部内の団結は無理だ」と否定、呉鎮守府長官野村直邦（のむら・なおくに）大将となった。しかし内閣総辞職で、これまた異例の「一日大臣」になった。

梅津　美治郎（うめづ・よしじろう）
明治15（1882）～昭和24（1949）大分県生まれ。昭和17年関東軍司令官。19年参謀総長。A級戦犯で終身禁固となり病死

●重臣７人が、平沼邸に集まったのは夜６時過ぎ

▽若槻が座長になり「非常時に人心一新の要あり」

事前に重要な取り決め

近衛、岡田、平沼、若槻の4人は、事前に打ち合せをしていた。

この会議で「東条不信任」の結論を出し、木戸から天皇に伝えて、倒閣の決め手にする。東条派の阿部から通報される恐れがあるので、あくまで意見交換ということにして、阿部には結論を内密にしておくこと。

東条は夜が明けるまで、この重臣会議のことは全く掴んでいなかった。

▽岡田は この後 木戸を訪ね 上奏文を手渡した

「内閣の一部改造の如きは何の役にも立たない」

明確に 総辞職を 要求したものだった

▽米内に対する 入閣工作は

野村・新海相も加わり 深夜まで続けられたが

「現役に復帰し、軍人としてご奉公する話なら喜んで応ずるが、内閣に入って東条と一緒にやることは、どうしても出来ない」と 拒否

●東条が最後の期待をかけたのが天皇

▽進退を 天皇の判断に 委ねることにし

１８日朝 拝謁を願い出た

▽木戸は それに先立って 重臣会議の結論を話し

「首相がこれから上奏する内容は存じませんが、いま言上した重臣の動向にご配慮の上、世論の赴く所と背反しないようお話されますように」

▽東条の辞職願いに 天皇は ただ一言「そうか」

東条が期待した 次の言葉はなく

最敬礼をして 御前を 下がるしかなかった

▽東条は 午前１１時２０分 天皇に辞表を提出

「今日は昭和の入鹿をやっつけたよ」

近衛は帰宅して千代子夫人に、短刀で相手を突き刺すような仕草をして云った。

大化の改新(645年)で、先祖の藤原鎌足が中大兄皇子(のちの天智天皇)と共に、蘇我入鹿を倒した思いだったのだろう。

東条の岸に対する恨み

閣僚は、内閣総辞職で勅選議員に推薦されるのが慣例になっていたが、東条は岸だけはしなかった。

「東条内閣総辞職」は瞬く間に

総辞職発表は20日だったが、作家の山本有三が18日の国語審議委員会に出ていると、文部省職員が「先生、万歳ですよ」と囁く。どこかで戦果を挙げたのかと聞くと、「東条が辞表を出したらしい」。山本もやはり万歳を叫びたくなったと云う。

山本　有三(やまもと・ゆうぞう)

明治20(1887)～昭和49(1974)栃木県生まれ。作家。国語改革にも活躍し昭和22年参議院議員。40年文化勲章受章。代表作に「真実一路」「路傍の石」

阿南惟幾大将は日記に

東条大将は、今日一朝失脚するや天下の怒声罵倒に会う。同情禁じ能わざれど、この非常時突破の間、常に野心的行動を疑われ、純真至誠の見るべきものなく、驕慢にして人事を私せるは世人の不満を来し、悲惨なる結末を以て終幕せり。

阿南　惟幾(あなみ・これちか)

明治20(1887)～昭和20(1945)東京生まれ。陸軍大将。第2方面軍司令官、航空総監を経て昭和20年4月に鈴木内閣陸相。ポツダム宣言受諾後、抗戦派を慰撫し、終戦の夜、割腹自決した

清沢洌は日記(19.7.22)に

これくらい乱暴、無知をしつくした内閣は日本にはなかった。

●２０日、小磯国昭朝鮮総督と米内に大命

勅語

卿等、協力シテ内閣ヲ組織スベシ。特ニ大東亜戦争ノ目的完遂ニ努ムベシ。尚、ソヴィエットロシアヲ刺激セザルヤウ着意スルヲ要ス

▽２２日 小磯・米内協力内閣が 成立したが
まだまだ 戦争継続内閣

▽東条は ぎりぎりまで
陸相に留まろうと 抵抗(22日 予備役に編入)

▽富永次官は 陸軍を代表して 小磯に
「新内閣が戦争を継続するならば、陸軍は協力を惜しまない」 脅しを ちらつかせた条件

▽四方憲兵隊長は 酒に酔って
「今に重臣の一人(岡田)と岸を殺すから見ておれ」

岡田の回想

東条以外の者が出てくれば、自ずから戦争に対する批判も生まれてくるだろうと思っていたが、小磯は思いもかけず首相になって有頂天になっただけだった。

▽徳川夢声は 日記に「新内閣ノ顔ブレ発表サル、何ダカ弱体内閣ノ感アリ」

▽宮中杖にすがって参内する ８１歳の町田忠治
足取りも覚束ない 閣僚に
早くも「木炭バス内閣」の声

東条内閣の教育的遺産

文部省は17年12月、義務教育で習得させる標準漢字として、2,669字を決定したが、戦後改革の端緒となった。国語審議会は同年7月、字音かなづかいは発音通りとし、国語横書きは左横書きを原則とすることを決定し、18年度国民学校教科書から一部採用された。今日の標準的な日本語表記法の出発点と云える。

また6大都市の国民学校学童に対し19年4月から学校給食が実施された。1人7勺(約100グラム)に過ぎなかったし、学童疎開で解消したが、戦後22年からの全国的実施の先駆となった。

小磯　国昭(こいそ・くにあき)

明治13(1880)～昭和25(1950)宇都宮生まれ。陸軍大将。拓務相を経て昭和17年朝鮮総督。19年7月首相となったが20年4月、沖縄戦の最中に総辞職。戦後、A級戦犯で終身禁固刑となり服役中に病死

町田　忠治(まちだ・ちゅうじ)

文久3(1863)～昭和21(1946) 秋田県生まれ。若槻内閣以来農相、蔵相などを歴任。昭和10年民政党総裁となり、小磯内閣で国務相就任。戦後、進歩党総裁

〇三〇日に小笠原諸島総督を本国に送還

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「サイパン陥落と東条英機内閣総辞職」関係年表

大正 8	1919	6. 28	ベルサイユ講和条約調印。サイパンなど南洋諸島、日本の委任統治領に
昭和11	1936	2. 26	二・二六事件。岡田啓介首相襲撃さる
12	1937	7. 7	蘆溝橋事件勃発。支那事変始まる
14	1939	9. 1	第2次世界大戦始まる
15	1940	7. 22	東条英機、第2次近衛内閣陸相に
		9. 27	日独伊三国同盟、ベルリンで調印
		11. 24	最後の元老・西園寺公望死去
16	1941	10. 18	東条内閣発足。東条は陸相、内相兼任
		12. 8	太平洋戦争始まる。真珠湾攻撃
17	1942	4. 18	B25爆撃機16機、日本本土を初空襲
		6. 5	ミッドウェー海戦。主力空母4隻喪失
		8. 7	米軍、ガダルカナルに上陸開始
		9. 21	長距離爆撃機B29の試作1号機完成
		12. 4	義務教育の標準漢字2,669字を発表
18	1943	2. 1	ガダルカナル撤退開始(7日完了)
		4. 18	連合艦隊司令長官山本五十六戦死
		7. 1	第1航空艦隊(中部太平洋基地航空部隊)編成
		8. 30	岡田元首相の斡旋で第1回重臣会合
		9. 8	イタリア無条件降伏
		9. 25	大本営、「絶対国防圏」を決定
		11. 1	軍需省設置。東条が軍需相兼任、商工相の岸信介は軍需次官・国務相に
		11. 24	ギルバート諸島マキン島守備隊玉砕
		12. 3	米英連合幕僚会議、対日戦略爆撃の基地としてマリアナ攻略を決定
19	1944	2. 5	マーシャル諸島の日本軍守備隊全滅
		2. 17	米機トラック島空襲、基地機能壊滅
		2. 19	「人心一新」に内閣改造、3閣僚交代
		2. 21	東条首相、陸相兼任のまま参謀総長。嶋田繁太郎海相も軍令部総長を兼任♦陸軍、中部太平洋に8派遣隊を発令
		2. 25	第31軍編成、軍司令官に小畑英良
		3. 1	海上機動決戦兵力として、第1機動艦隊を編成、司令長官に小沢治三郎
		3. 4	中部太平洋方面艦隊編成(南雲忠一司令長官)
		3. 7	新鋭空母大鳳(29,300トン)完成
		3. 8	インパール作戦始まる
		3. 11	米統合参謀本部、サイパン攻略指示
		3. 19	サイパン防備強化の第1陣上陸
		3. 31	連合艦隊長官古賀峯一、遭難殉職
		4. 1	6大都市の国民学校児童に給食開始
		4. 7	第43師団(名古屋)のサイパン派遣決定
		5. 3	連合艦隊司令長官に豊田副務♦嶋田、豊田に「あ号作戦」指示
		5. 19	サイパンに第43師団主力到着♦第1機動艦隊、タウイタウイ(比島南西端)に集結
		5. 20	連合艦隊「あ号作戦」開始を発令
		5. 27	米軍、ビアク島(ニューギニア西部)に上陸
		6. 4	連合艦隊長官、「渾作戦」発令♦第43師団第2陣輸送船、6隻中5隻撃沈される
		6. 6	連合軍、仏ノルマンディ上陸
		6. 11	米機動部隊、マリアナ諸島来襲
		6. 13	サイパン艦砲射撃♦連合艦隊「あ号作戦決戦用意」「渾作戦中止」を発令
昭和19	1944	6. 15	米軍、サイパン島上陸開始♦連合艦隊「あ号作戦決戦発動」を発令
		6. 16	岡田、嶋田に海相辞任を迫る
		6. 16	中国基地発進のB29、北九州初空襲
		6. 18	米軍、アスリート飛行場占領
		6. 19	マリアナ沖海戦で空母大鳳、翔鶴、飛鷹沈没。航空機395機を失う
		6. 23	大本営「敵空母5隻、戦艦1隻以上ヲ撃沈破、敵機100機以上ヲ撃墜。我方ハ空母1隻、飛行機50機ヲ失エリ」と発表♦東条、東久邇宮に辞意を洩らす
		6. 24	東条、「サイパン奪回断念」を上奏♦高木惣吉少将、岡田に「東条暗殺計画」
		6. 26	伏見宮、嶋田に海相辞任を勧告
		6. 27	東条、岡田を呼び嶋田問題で詰問
		6. 30	津野田是重少佐、石原莞爾元中将を鶴岡に訪ね「東条暗殺計画」に同意を得る♦閣議、学童疎開促進要綱を決定
		7. 1	東条、「インパール作戦中止」を上奏
		7. 6	南雲、斎藤義次(第43師団長)、井桁敬司(第31軍参謀長)ら幹部、訣別電報を打ち自決♦翼賛政治会の代議士会、倒閣大会に
		7. 7	サイパン島守備隊玉砕♦閣議、沖縄県の老幼婦女子、学童疎開を決定
		7. 8	国民学校3~6年生の集団疎開を決定
		7. 9	サイパン北端マッピ岬に追い詰められた女性、子供を抱え次々投身自殺
		7. 13	木戸幸一内大臣、東条に陸海相・総長の分離、嶋田海相更迭など3条件提示
		7. 14	東条、参謀総長辞任を決意し、後任に後宮淳参謀次長を内奏
		7. 17	東条、陸軍部内の反対により、参謀総長を梅津美治郎に変更♦嶋田、海相を辞任し後任に野村直邦♦米内光政、入閣要請拒否♦岸、国務相の辞表提出拒否♦重臣会議「東条不信任」の上奏文
		7. 18	東条内閣総辞職♦サイパン玉砕発表
		7. 19	中国出張から帰国の津野田少佐逮捕
		7. 20	小磯国昭(朝鮮総督)、米内に大命降下♦ドイツでヒットラー総統暗殺未遂事件
		7. 21	米軍、グアム島へ上陸(8月11日玉砕)
		7. 22	小磯・米内協力内閣成立。米内は現役に復帰し海相♦東条、予備役編入発令
		7. 24	米軍、テニアン島へ上陸(8月3日玉砕)
		8. 21	高松宮、横須賀海軍砲術学校教頭に
		10. 20	米軍、フィリピン・レイテ島上陸
		11. 1	マリアナ発進のB29、東京を偵察
		11. 24	B29、三鷹の中島飛行機工場を爆撃
20	1945	2. 19	米軍、硫黄島に上陸開始(3月21日玉砕発表)
		3. 9	298機のB29、東京大空襲。江東全滅
		4. 1	米軍、沖縄本島に上陸
		4. 5	小磯内閣総辞職、鈴木貫太郎に大命
		4. 7	戦艦大和、南九州沖で撃沈される
		5. 7	ドイツ、連合軍に無条件降伏
		8. 15	敗戦